

住吉市民病院廃止・再編計画

不安や疑問噴出

大阪・西成区で府が説明会

大阪市立住吉市民病院廃止に伴う病院再編計画について大阪市と大阪府は9日、西成区で市民説明会を開き、90人が参加しました。4月25日の住之江区に続くもの。今回も参加者から不安や疑問、「公立病院で存続を」の声が続出しましたが、市民が納得する説明は行われませんでした。

―と、市が市民病院跡地に誘致する医療法人三宝会（南港病院）に再編するものです。現在より小児・新生児科が22床減少し、南港病院は医師3人で年間600〜700件の分娩（ぶんべん）を行うとされています（医師1人当たり全国平均の倍）。市南部保健医療圏の各医師会長がこぞって反対し、府医療審議会での反対多数、7万人の反対署名を押し

不安や疑問が噴出した説明会11月9日、大阪市西成区



切って厚生労働省に計画が申請され、同意されました。

説明会では住吉市民病院が担っている未受診妊婦の受け入れや心の病気の子どものケア、虐待児の受け入れなどの福祉的機能が継続されるのかという不

安に対し市は、住吉母子医療センターと南港病院で役割分担すると答えるにとどまりました。

南港病院が30年間医療を継続するとしていることについて、締結

する基本協定書では違約条項は設けず、福祉機能の役割分担についても盛り込む予定はないことが判明。「医療

の継続や内容の保障が見えない。市民の意見はどこが責任もって反映するのか」「説明会を開いたことを理由に強引に進めないでほしい」との発言に拍手が起りました。

説明会は今回で終了し、さらに小さい単位で行うかどうかは区と検討するとしています。